成果の説明書

(氏名)　加藤　健太	(学部)　経済

1　重要事項

（a）企業家・経営者研究

戦間期日本の産業政策に関する企業家・経営者の要望を検討した以下の論文を発表した。

◎「産業政策と企業家・経営者―戦間期日本の自動車工業のケース―」『産業研究』第60巻第1号、2024年11月。

【要旨】

この論文では、戦間期日本の自動車工業を対象にして、産業政策（政府の施策）に関する企業家・経営者の要望を明らかにした。主な分析結果は以下のとおりである。

第1に、企業家・経営者の要望は多様であった。多くの保護育成策を求める企業家・経営者がいる一方で、政府にほとんどなにも求めない企業家・経営者もいた。企業家・経営者のスタンス（利害）は必ずしも一致しておらず、全員が政府に対して保護育成策を要求したわけではなかったのである。

第2に、企業家・経営者の重視する施策と政府の有力視するそれはかなり異なっていた。前者は、使用奨励などを通じた需要の確保を強く求めた。他方、後者は、許可制の導入と標準型式の策定、そして、それらを通じて標準型式自動車を大量生産することをもっとも重要視していた。自動車工業を確立するための政策をめぐって、民間企業と政府の間には、小さくない乖離が生じていたといえる。

なお、この研究は2023年度の「成果の説明書」において、「2017年6月10日開催の経営史学会中部ワークショップで報告した『産業政策と企業家・経営者―戦前期日本の自動車工業のケース―』を論文として発表したい」と述べた「次年度以降の計画・抱負」を実現したものである。

（b）資料紹介

高崎経済大学図書館所蔵の一次史料を題材にして以下の資料紹介を発表した。

◎「戦時期における昭和鉱業の株主総会―『昭和鉱業株式会社株主総会資料綴』の紹介―」『エネルギー史研究』第40号、2025年3月。

この資料紹介では、昭和鉱業の設立と事業活動を簡単に検討したあと、『昭和鉱業株式会社株主総会資料綴』に収録された各種資料を概観したうえで、とくに有用と思われる1942年11月25日開催の第18回定時株主総会と43年3月11日開催の臨時株主総会の「開催通知」、「議事次第書」、「議事録」などを詳しく紹介した。

（c）研究会報告

明治学院大学の岡崎哲二教授、学習院大学の石井晋教授および埼玉大学の大石直樹教授と行っている共同研究の中間報告会において、以下の報告をした。

◎「復興期日本電力業の危機と電源開発―日本発送電の発電設備を中心にして―」2025年2月13日＠明治学院大学。

この報告では、第二次世界大戦の敗戦から日本発送電の解散までの期間を対象にして、電力業における発電設備の復旧と拡充の実態を検証した。その際、戦時との連続と断絶という分析視角を採用した。より具体的にいえば、敗戦までに着工した連続性をもつ設備（≒「生産力拡充実施計画」に盛り込まれた設備）、戦後に復旧・拡充した設備（連続）、戦後に工事に着手した設備（断絶）を区分し、それぞれの特徴を明らかにした。

2024 年度・第 8 回日本経済史・経営史研究会において、以下の報告を行った。

◎「＜一次史料志向型＞経済史・経営史研究という接近法」2024 年 12 月 14 日＠まちなかキャンパス長岡。

この報告では、＜一次史料志向型＞とでも呼ぶべき経済史・経営史研究に関する接近法とその有効性を報告した。具体的な内容を簡潔にまとめれば、「『何かオモシロいことを明らかにできそう』な一次史料を収集・比較・選抜し、抜書き（パソコン入力）して論文の構成を構想し、ストーリーを思い描き、先行研究の批判的な検討を踏まえて課題を設定できれば、あとは二次文献でストーリーを膨らませながら執筆するだけである。」となる。

（d）コメント

2024 年度・第 8 回日本経済史・経営史研究会において、以下の埼玉大学の大学院生の研究に対して以下のコメントをした。

◎「『戦前期日本の株式分割払込制度について』に対するコメント」2024 年 12 月 14 日＠まちなかキャンパス長岡。

2　その他の事項

（1）テキストの改訂作業

＊加藤健太・大石直樹（2013）『ケースに学ぶ日本の企業―ビジネス・ヒストリーへの招待―』（有斐閣）を改訂するため、新たなケースを執筆し、埼玉大学の大石直樹教授、有斐閣の編集者と打合せを行った。

（2）経営史学会編集委員の業務

＊経営史学会の編集委員として、2024 年の 5 月 25 日、8 月 10 日、および 11 月 9 日の計 3 回の編集委員会に出席し、担当編集委員となった 2 本の投稿論文について、「審査経過・最終審査報告書（案）」と「最終審査報告書（委員会保存用）」の作成・報告を行った。

（3）資料調査

＊東京大学経済学部図書館、国立公文書館、九州歴史資料館などで資料調査を行い、有用な一次史料および二次文献を入手した。

3　次年度以降の計画・抱負

◎2023 年度の「成果の説明書」の「3　次年度以降の計画・抱負」で言及した産業政策史研究を継続する。具体的には、戦間期日本の自動車工業を対象にして、使用奨励を通じた需要の確保をめぐる政策過程を検討する予定である。

◎社会経済史学会から依頼されている石井裕晶（2024）『中野武営―渋沢栄一と双璧と呼ばれた男―』（岩波書店）と経営史学会から依頼されている横山和輝（2024）『インセンティブの経済学―殖産興業から学ぶ経済学入門―』（新世社）の書評を執筆する予定である。

◎『よくわかる日本経済史（仮）』（ミネルヴァ書房）の 1 つの節としてモータリゼーションに関する原稿を執筆する予定である。

◎『新・日本の産業と企業―主要産業の見取図 20―（仮）』（有斐閣）の 1 つの章として外食産業を対象にした原稿を執筆する予定である。

◎戦時から高度成長期を対象にした電力業史研究に必要な資料を収集するため、電力中央研究所などを積極的に訪問したい。